

リオデジャネイロオリンピックボランティアに参加して

2018. 8. 21

株式会社 極東技工コンサルタント 山本 幸

2020 年東京でオリンピックが開催されるということで世間は徐々にオリンピックムードが高まっていますね。

私は、2016 年にリオデジャネイロオリンピック&パラリンピックのボランティアとしてブラジルに約 2 か月滞在しました。当時の写真を交えながら体験したことを記したいと思います。



写真 1. リオデジャネイロにて

私は（株）極東技工コンサルタント大阪本社 of 設計部に所属しています。オリンピックボランティアが決まった時は長期休暇にもかかわらず社長を始めチームも快諾して下さい、本当に感謝しています。（家族は本気やったんや、とびっくりしていましたが。）

■オリンピックボランティアになるために



写真 2.
ブラジリア大聖堂

オリンピックボランティアになるための審査は開催 2 年前に始まりました。英語、ポルトガル語の試験に通過し、ボランティアとしての接客の授業、文化の違い等の授業をインターネットで受講し、最終テレビ電話での集団面接を経て、カスタマーサービスという職を手に入れました。

■現地での私の仕事

私の仕事は主に、お年寄りや、小さなお子様連れの家族を優先する入口での案内でした。言葉での説明が難しい場合は一緒に行ったり、絵で表現しました。ブラジルは気さくな人が多く、ハイタッチをしたり、笑顔で話しかけてくれたので、毎日楽しく仕事ことができました。

■ブラジルで驚いたこと

職場は首都ブラジリアのサッカー競技場でした。ブラジルが出場の時は、全員が観戦に熱狂して仕事そっちのけで、ブラジルを応援しました。

スナック菓子、コーラは頻繁に支給され、食べながら案内はするわ、白昼堂々ナンパはするわ、こんなんでいいのかなあ？と思いましたが私も気が付けばリングをかじりながら仕事をしていました。

ブラジル式の挨拶は軽く抱き合い、お互い同時に両頬にキスをします。日本



写真 3.
マネ・ガリンチャスタジアム
にて（左端が私です。）

では考えられない文化です。

しかし、郷に入れば・・・と考える私は皆に失礼のないようにきっちりとブラジル式の挨拶を守っていました。

滞在1週間が過ぎた頃、仲間から「ユキ、キスする真似でいいんだよ、チュッ、と口先で音だけ鳴らすのよ。」と言われました。つまり皆ほとんどが「エアーキス」だったのです！

ブラジルでは食べながら歩くのは習慣のようで、アイスクリームを食べながらバスに乗るのも普通の光景でした。そして車内では知らない人同士で会話が盛り上がることもありました。路線バスの車内販売も多く、私も買い食いしていました。

バス停も時刻表も曖昧で誰もあまり気にしていません。バスが時間ど

おりに来なくても誰かしら会話が始まりのんびりバスを待つのも驚きでした。

ブラジルは治安が良くないと言われています。怖いな、と思ったことは、車の助手席でスマホを触っているときに「スマホはあまり車内で触らないようにね、窓ガラスを割られて盗まれちゃうよ。」と注意を受けたときでした。

■ブラジル周遊



写真5.
アマゾン魚料理のメニュー
カード
淡泊おいしいですよ。

オリンピック開催とパラリンピック開催の間に2週間あったのでブラジルを周遊しました。アマゾンで川イルカに出逢ったり、ピラニアを釣ったのは良い思い出となりました。

サルヴァドールでカポエイラ道場を見学し、建築家オスカー・ニーマイヤーの実際の作品を見てブラジルのスケールの大きさを実感しました。

■オリンピックボランティアとは

自分でいかに楽しみながら働くかがオリンピックボランティアの仕事だったように思います。言葉が通じなくても笑顔で何とかなるし、出来ないこと、不可能だ！と思うこともなんとかなります。(パーティの時にサンバは下手なので盆踊りで代用をしました。)

相手を思いやり、相手の文化を尊重し認め合う、貴重な体験のスコールを連日浴びたような気がします。

皆様も是非東京オリンピックでボランティアをされてみてはいかがでしょうか？



写真4.
色々な国から来たボランティアスタッフと休日にピクニック



写真6.
リオデジャネイロ会場で仲間と